

日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 30 回 輸送容器分科会 (F3SC) 議事録

1. 実施日時 : 令和元年 12 月 10 日 (火) 15 : 00~16 : 15
2. 実施場所 : 原燃輸送(株) 本店 大会議室
3. 出席者 : (敬称略)
(出席委員) 久保 (主査), 浅見 (副主査), 高月 (幹事), 北瀬, 溝渕, 影山, 山岡, 松岡,
道券 (9 名)
(代理出席委員) 樋口 (吉田代理) (1 名)
(欠席委員) 木倉, 水谷, 村松, 清水 (4 名)
(常時参加者) 菊池 (1 名)
(代理出席常時参加者) 伊藤 (千) (南波代理) (1 名)
(欠席常時参加者) 広瀬, 高橋 (秀), 蓬田, 樋口 (代理出席委員として参加), 伊藤 (賢),
高橋 (純) (6 名)

4. 資料

	第 30 回輸送容器分科会座席表, 議事次第
F3SC30-1	第 29 回 輸送容器分科会議事録 (案)
F3SC30-2-1	輸送容器分科会作業会の設置について (案)
F3SC30-2-2	人事について (案)
F3SC30-3	「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準: 2013」改定の進め方について
F3SC30-4	原子燃料サイクル専門部会標準策定 5 年計画 (2020 年度版案)

〈参考〉

1101-01-03	標準委員会 専門部会運営細則
FTC82-X	第 81 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録 (案)
F4SC51-7-1	“使用済燃料中間貯蔵用金属キャスクの安全設計及び検査基準” 改定提案
F4SC51-7-2	標準委員会審議の役割, 確認すべき事例等の説明〈参考〉

5. 概要

日本原子力学会標準委員会原子燃料サイクル専門部会 第 30 回 輸送容器分科会 (F3SC) が開催され, 「使用済燃料・混合酸化物・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準: 2013」改定の進め方について議論し, 輸送容器分科会として, 作業会の設置及び作業会委員候補者について承認した。合わせて, 輸送容器分科会スケジュール等について確認を行った。

6. 内容

- (1) 出席者の確認

久保主査より、14名の委員中、代理出席を含め10名の委員の出席があり、分科会成立に必要な委員数（10名以上）を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録 (F3SC30-1)

事務局（高月幹事）より前回議事録の内容が説明された。コメントはなく、原案通りとすることが確認された。

(3) 輸送容器分科会作業会について

a. 輸送容器分科会作業会の設置について (F3SC30-2-1)

事務局から作業会の設置目的、検討事項、運営要領等が説明された。原案通り、作業会の設置について承認された。なお、引用文献やデータのレビューにあたっては、必要に応じて外部専門家にも協力を仰ぎ確実に実施していくことが確認された。

b. 人事について (F3SC30-2-2)

F3SC30-2-2 に示される7名の委員候補が推薦された。決議の結果、新委員として選任した。合わせて、3名の常時参加登録希望者について承認された。

電気事業者、研究機関、燃料メーカーからの参加者があれば、適宜追加承認することとし、まずは、承認されたメンバーでの作業会役員を互選し、分科会に報告するよう求めた。また、これに伴い、事務局より委嘱状を送付することとなった。

(4) 「使用済燃料・混合酸化物・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準：2013」改定の進め方について (F3SC30-3)

「使用済燃料・混合酸化物・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準 AESJ-SC-F006：2013」の改定の進め方について以下が確認された。

- ・ リサイクル燃料貯蔵分科会 (F4SC) で検討している、「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準 AESJ-SC-F002:2010」の改定が3ヶ月程度遅れているが、AESJ-SC-F006の改定スケジュールは従前どおり2020年度末の改定を目標とし、必要が生じればスケジュールを見直す。

(5) 原子燃料サイクル専門部会標準策定5カ年計画 (F3SC30-4)

事務局よりサイクル専門部会から依頼のあった各分科会における標準策定計画に関して、輸送容器分科会が担当する3標準のスケジュール等を最新化したことが報告された。

2021年度以降に予定されている、「低レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準：2008」(AESJ-SC-F013:2008)「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物・低レベル放射性廃棄物輸送容器定期点検基準：2008」(AESJ-SC-

F001:2008) について、どちらを優先して改定するかについては、ニーズ、シーズを確認して判断することとなった。なお、他の分科会にて、作成した標準が基準なのか指針なのか議論され、名称を変更した標準があったとの注意喚起があり、委員会や専門部会の動向を踏まえ、必要に応じて名称変更も考慮することが確認された。

(6) 今後の予定

次回(第31回)は1月21日に開催予定。作業会の人事および2月6日に開催される専門部会への報告内容について審議することを目的とする。

以 上